

みつくら

令和 2年11月15日 第326号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

ガードレール・デリネーターを設置

今年3月に舗装工事を終った7区の「市道大瀬川線」では、9月下旬に7区公民館北側部分へ新たにガードレールが設置され、公民館側への車両や除雪の危険度が下がった。また、工事区間以外を含めた7区公民館～菅原清孝さん(新山)まではデリネーター(視線誘導標)が設置されて、視界の悪い雨天時や夜間には反射材で道路線形を遠くから知らせ注意喚起を促すため、通行時は大変見通しが良くなり地域から感謝されている。

「コロナにも負けず」第25回賢治葛丸祭開催

10月11日に石鳥谷賢治の会(玉山領一会長)は例年よりも大幅に規模を縮小して賢治葛丸祭を大瀬川構造改善センターで35名が参加して開催した。今回はコロナ禍での開催なので来賓は呼ばず、また子供達が出る野外劇や賢治さんへの手紙も中止となった。開会後の会長挨拶で「この葛丸祭は賢治の会のメイン事業です。賢治さんが生きていた100年前にもスペイン風邪と言う世界中で多くの犠牲者を出した病気が流行しました。それでも人間はこの病気を越えて現在に至っています。ここで賢治さんを偲び有意義な時間を皆さまでに過ごして頂きたい」とあった。

その後八日市鹿踊り保存会の皆さんが勇壮な鹿踊りを演舞。続いて石鳥谷吟詠会が短歌「葛丸」や「アメモマケズ」を朗々と歌い挙げた。最後はエコーくずまるの8名が「里の秋」や「ふるさと」の他に精神歌のエコーくずまる・バージョンの披露もあり、素晴らしい歌声となった。終わりに参加者全員で「精神歌」を歌った。最後の所感では八重畑の小原正通さんが「大瀬川にある『やまなし園』ではやまなしの木の育成に10年取組んでおられます。今後も賢治葛丸祭を一緒に盛り上げましょう」と締め練った。

表 彰 (敬称略)

県高校新人大会 バトミントン
 ダブルス準優勝 花北青雲 島山鈴木 (万蔵かまど)

熊谷さんが柏崎サンドレースで3位

去る10月17日から2日間にわたって、新潟県柏崎市で行われた第22回かしわざきオフロードフェスティバル(ATVの部。日本ATV協会全日本スーパーオフロードATV選手権レース)で、熊谷静治(野原)さんは見事3位に入賞した。このレースは、全国的にも珍しい、砂浜を使ったオフロードイベントで、柏崎海岸の砂浜を会場にしたもので、砂に食い込む深い轍(わだち)を上手に乗りこなす特殊な技術が要求されるレースであった。

初日の予選を2位で通過し、決勝の22台に進出した熊谷さんは、「山岳でのレースは、若い頃に多く経験していましたが、何しろ60歳を超えて更に15年振りに出場するので、オーナー(車の所有者)から頼まれた時には少し躊躇しましたが、血潮が湧き上がって引き受けました」と話してくれた。

レースは一周1kmを15周して行った。車はカナダ製のバギー車で、1000CC200馬力の日本に3台しか無い名車だったので、転倒したり、衝突しないように気をつけて走破したという。

「なにがきっかけでレースに興味を持ったの?」と聞いたならば、「高校を卒業して初めて勤務したのが自衛隊の戦車大隊でした。戦車の操縦が評価されたのか3年後には戦車大隊長の運転手に抜擢され、それがきっかけだと思います」と語られた。

板垣さんが写真を出展

くずまる写真クラブの有志が、10月22日に岩手教育会館で開催された「第5回東北現展」を見学した。

この東北現展は毎年開かれている写真展で、主催は現代美術家協会東北支部。出展者は22人で、その中に板垣弘清さんの作品2点が出展されていた。その中の「たそがれの妖精」は、背景を暗く、水芭蕉に光を当てた神秘的な作品であった。

見学した有志達は、板垣さんから全部の出展作品33点を、一つずつ丁寧に説明して頂いた。

大瀬川歴史探訪講座開催

去る、10月25日大瀬川振興センターにて第66回大瀬川歴史探訪講座が開催された。今回のテーマ「大瀬川の居住と屋号」で講師は菅原 茂さん(田中)が務め、20名が参加した。前段、菅原さんが勤務している(株)山下組での鉄鋼スラグ路盤・ICT施工・勤務内容などについてお話があった。

中でも、林道道路工事において簡易舗装材として鉄鋼製造過程の副産物となっている「鉄鋼スラグ」については、この鉄鋼スラグを敷設し水を散布して転圧することにより、簡易舗装材よりコストを抑えられ補修や除草等の維持削減となっている実例が紹介された。

その後、菅原得之さんが12年間に亘って調査し、年代順にまとめた「大瀬川の居住と屋号」の資料をもとに、出席者から訂正箇所などを指摘して頂きながら得之さんの司会で座談会を行った。この資料では、いろいろな古文書から、大瀬川最初の

家は承平7年(西暦737年)の田中家で『京都の医者菅原善姓・・・』から始まりA4版464ページにまとめられており、参加者からは歴史を辿る上で非常に貴重なものとなるので大変参考になったと感想が多く寄せられていた。

尚、この資料は大瀬川地区文化祭に併せ、企画展として大瀬川振興センターに12月25日まで展示されている。

男子バレーチーム4連覇達成!

去る、10月25日(町体育館にて、第47回石鳥谷9人制バレーボール大会が開催された。当大瀬川チームは練習を積み重ね本番に挑み、4連覇(今回で9回目の優勝)することができた。今年の男子の参加は4チームで、初戦八日市チームに勝ち決勝戦では好地チームに勝ち優勝となった。大瀬川チームの出場選手は、菅原幸福さん、菅原崇将さん、板垣雄一さん、板垣春介さん、板垣圭介さん、板垣幸規さん、板垣伸吾さん、柳原紘樹さん、藤原誠さん、板垣拓海さん、菅原 茂さんで皆さん御苦労さまでした。

また、女子はメンバーが揃わず、参加は新掘チーム1チームだけとなり男子との試合となってしまった。大瀬川体協では「女子メンバーを揃えれば次回優勝の可能性もあるため、是非とも参加をしたいので、経験がなくても体を動かしたい方は体協役員か出場選手にご一報頂きたい」としている。

オレオレ詐欺について学ぶ

たんぼぼの会(熊谷幸子代表)の10月集会は28日に「オレオレ詐欺は」と題し石鳥谷交番に4月に配属となった井上巡査(21才)がDVDを使ってわかりやすく解説した。

「詐欺には色々な手口があって、『自分は絶対に大丈夫』と思っている方こそ話しに乗りやすいので注意して下さい。と話した後に、私達もコロナ禍の影響で家庭訪問調査が遅れ最近になって少しずつ歩き始めていますが、オレオレ詐欺に出ていた偽警察と間違わないよう、私をよく覚えて帰ってください。」と話され、一同の笑いを誘った。

最後には高齢者の交通安全事故防止のお話も頂き、町交通安全母の会連合会から反射材付き手袋とライトホルダーが参加者全員に配られた。

カーブミラー清掃を行う

交通安全協会大瀬川分会(板垣吉彦分会長)では、例年行っているガードレール清掃がコロナ禍の影響で取りやめとなったため、少人数で行えるカーブミラー清掃に切替えて11月1日に行った。当日は、安協の役員12名が1チーム3名で、大瀬川地内(葛丸ダム道路を除く)29基の43面のカーブミラーをブラシで洗った。いつも見ているカーブミラーだが以外と高く、脚立を使う場所や交通量の多い場所もあり注意しながらの作業となった。中には傾いているミラーやひさしが破損しているものもあり、板垣分会長は交通安全石鳥谷支会を通じて修理依頼を行いたいと話していた。

みつくら

令和 2年11月15日 第326号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

交通安全看板を新しくする

交通安全協会大瀬川分会（板垣吉彦分会長）では、10月末に大瀬川線8区の花壇下歩道脇に設置されていた「飲酒運転追放宣言地区」の看板を更新し、地色を信号の色に、標語を「今日も皆で交通安全火の用心」に書き換えた。

前の看板の設置時期は不明だが、平成24年には菅原塗装に依頼して再塗装を行っている。近年、枠の変形と錆が目立ち文字も薄くなっていたため、大瀬川活性化会議に補助申請を行い更新となった。

今回の看板は、安全協会だけでなく消防団からも地域の安全のために共に啓蒙活動ができればとの声があり、団からも援助を頂いて火災予防の標語も入れている。

また、安全協会では大瀬川線の高橋スミ子さん宅近くの交差点にある縦看板の字も薄くなっていたため、補助金に追加して看板のみ新しくし骨組みは再利用した。この縦看板の設置時期は不明となっているが、県道285号線の菅野裕二さん宅付近にある交通安全広告塔のシート張替え事業の際に、骨組みだけとなっていたものを当時の熊谷恭一分会長の発案で平成14年〜17年に特別基金を創設して改修している。

教訓が多かった津波伝承館の見学

くずまる大学（菅原得之自治会長）の2回目の学習会は、10月28日に30名が参加して陸前高田市の東日本大震災津波伝承館「いわてTSUNAMIメモリアル」を見学した。

この津波伝承館は、昨年の9月に開館したもので、橋見家の熊谷和典さんが一行を出迎えてくれた。県職員の熊谷さんは、開館時から当館に勤務しており、案内によると見学者は既に25万人を超え、特に修学旅行先として注目されている。その日も桜木小学校（盛岡市）の子供達が訪れており、館内では、当時を伝える津波襲来などの映像シアター上映があるのだが、コロナ禍の為視聴席が限られ、残念ながらこの日は視ることができなかった。

帰りの車中で菅原正勝さんが「まだ現役でタクシードライバーをしていた当時岩手県からの要請で石鳥谷斎場で火葬さ

れた遺骨を持った方を鶴住居まで乗せた。その息子さんは父親と一緒に避難しようと言ったが、頑として拒否したのでやむなく置いて避難し、その父親を津波で亡くした事を悔やんで道中ずっと号泣し続けた。私は『思いきり泣け』と話して被災した夜道を迷いながら走った」との実話を話された。

大震災から9年半。内陸部の私達にとって、震災の記憶が少し遠のいた感もあった。伝承館の展示は当時の悲惨な被災の姿を伝え、多くの教訓と「てんでんこ」の意味をあらためて思い起こさせる今回の学習会であった。

大瀬川の「シンボルツリー・銀杏」をライトアップ

11月3日から運動公園にある銀杏の木のライトアップが始まった。今年で3年目になるものでライトはLEDランプの投光器を使用している。最初の時は電気料金が心配だったがLEDランプを使用する事で10分の1の消費電力で済むようになった。

春は桜の木のライトアップと年2回実施している。今年はなぜか銀杏の実がほとんど実らずいつもの独特の匂いがしない。過去2年は足の踏み場がなほど落ちていたが今年は木が休んでいるのかもしれない。点灯時間は午後4時から9時までで期間は20日ごろを予定している。

女性学級講座でスワッグを作成

11月5日に大瀬川活性化会議の生涯学習・生涯スポーツ推進委員会主催の「スワッグ教室」を紫波町の坂本明子さんを講師に迎え17名が受講した。そもそも「スワッグ」とは何かと言うと花や植物を束ねて作った壁飾りのことで、吊るして飾っているうちにドライフラワーになっていく様子を楽しむことができる。2時間ほどで完成したが生花を使うので出来立ては花の良い香がしていた。

受講した方から「考えていたよりも難しかった」「リボンの結び方が複雑だった」などの感想が聞かれたが、10種類の花材のバランスを考えて作成する事がコツと教えられた。

この作品は7日・8日の大瀬川地区文化祭に展示された。

ブルリの杜が二周年記念式典とブルリの杜祭り

去年4月に開所した一般社団法人「ブルリの杜」（熊谷和彦代表理事）は10月3日に入所者17名と職員のみで二周年記念式典とブルリの杜祭りをおこなった。

コロナ禍の為に家族も呼ばず内輪での開催となってしまったが、式典後のステージ発表では、3週間前から練習したダンスやピアノ演奏、カラオケ、バルーンアートなどを披露して楽しんだ。また駄菓子屋さんの模擬店も出て入所者はもちろん職員も大変喜んだ。昼には自分達で育てたタマネギの入った豚汁でお腹を満たして終了となった。

この模様はDVDに保存して来られなかった家族へ送っている。「来年は是非とも地域の皆さんと共に三周年を祝いたい」と熊谷代表が話していた。

「たろし滝」の幟旗がリニューアル

大瀬川たろし滝測定保存会（板垣寛会長）が8月に検討していた幟旗が納品された。3回目の色は、執行部で検討の結果「オレンジ色」から「ピンク色」に変更となった。字体等は前回の型紙を利用しているので変更はないが、雪の中につ「ピンク色」もまた映える事だろう。

訃 報

○魚屋の柳原浪子さんは、10月6日に93歳で亡くなられました。柳原さんは、新堀の島野（地名）出身で、ご主人の末吉さんが小屋場魚屋を開いた翌年の昭和25年に結婚され、以来戦後の食糧不足の時代から平成10年までお店を支えてこられた方でした。特に戦後は、魚を買うお金が無い家が多くありましたが、魚屋さんは「年取り（歳末）」まで貸してくれたので多くの方から感謝されたものでした。

柳原さんが、大瀬川に嫁がれた時の魚屋は、はたふく商店の道路を挟んで東の向いに有りましたが、板垣二三男さんが「かるく商店」を開くために、昭和29年から現在地に店を開いていました。柳原浪子さんで思い出すのは、昭和29年に魚屋を移転した際、店を兼ねた母屋を新築した時に、店の奥に据え付けた大型冷蔵庫でした。当時は、大瀬川ではもちろん、街でも珍しい頃でしたので、近所の方々が見学したものでした。両扉は木製で、大きなハンドルだけは真鍮で出来ていて、内側にはブリキを張った大きな冷蔵庫を見せて頂いたのを思い出します。

大瀬川婦人学級運営委員長や大瀬川婦人協議会の監事などでも活躍されました柳原さんに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

○赤坂家の菅原ヨシさんは、11月2日に89歳で亡くなられました。菅原さんは、新堀の中野（地名）出身で、18歳の時に赤坂家に嫁がれました。

菅原さんで思い出すのは、いつも柔らか（にこやか）な顔で、穏やかな話し方をした方で、皆さんに親しまれた方でした。近所の方々から「赤坂のおばあさんは、ご主人をたてて、ご自分は表には出ずに、いつも優しい方で、怒った顔など見たことはないよ」と話し、続いて「役職の多かったご主人の英栄さんの分まで働かれ、趣味も持てないほど家業に尽くされたんですよ」との事でした。

また、「数年前にヨシさんが、留屋敷家の菅原和子さんに乗せられて石鳥谷まつりを見ていた時にお会いした事がありますが、自然体（しぜんたい）な語り口で、『留屋敷（とめしき）さんが乗せてくれたので見に来ることができたの』と優しい笑顔でしたよ」ともお聞きしました。

何の場合でも誘われるのは嬉しいものですから・・・。
 大瀬川婦人消防協力隊副隊長など地区でも活躍されました菅原さんに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。